

第4回 一宮駅周辺地区ウォークアブル推進事業に係る対話型説明会 議事概要

1. 日時・場所

2024年11月23日(土) 14:00~16:00

一宮市役所本庁舎 11階 1101会議室

2. 出席者

参加者 19名

(アドバイザー) 株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役 西村 浩 氏

(ファシリテーター) 錦二丁目エリアマネジメント株式会社 名畑 恵 氏

(事務局:市) 一宮市まちづくり部都市計画課

3. 次第

(1) 本日の説明会について

(2) 8月27日(火)、10月20日(日)に開催された対話型説明会における意見を踏まえた検討結果について

(3) 意見交換

4. 議事概要

- ・スライドに沿って検討内容についての説明を行った。
- ・市の検討内容についての意見交換を行った。

5. 主な意見

(アドバイザー)

- ・暮らしている状況、立場で意見が違ふことは当たり前であり、意見がまとまるとは思っていない。みんなが同じ意見にはならないが、その意見をフラットに行政に届けることが目的である。
- ・人口減少下において、地方都市では若者が都会に出て戻ってこない。今後一宮市が生き残るため、住む場所として選ばれるまちとするために、どんなまちづくりをし、どのような使い方をしていくか考えることが重要である。
- ・今後、事業化しても完成するまで5~10年程度かかる。国の補助金を使うと整備後10年間は再整備できないので、20年後、どのようなまちになっていきたいかを想像しながら検討を進める。
- ・子どもたちが幼少期に一宮市でどのような暮らし、体験をしたかによって、若者が戻ってくるかが変わり、銀座通り沿線の未来は変わる。

(参加者)

○銀座通りの整備方針について

- ・沿線で商売をしている立場としては、道路などは現在の状況で問題はない。
- ・沿線で商売をしている立場としては、通行止めを行わず大規模なイベントが開けるのはいいが、車道を北側に寄せることで南側店舗は車道から遠くなるので、きちんと意見を聴くべきである。
- ・子どもが進学や就職で一宮を離れたとしても戻ってくるまちにするために、子どもたちにも直接意見

を聴いてほしい。

- ・周辺に住んでいるが、やはり平日は寂しい印象がある。子どもが安心して過ごせる場所があれば、思い出になるのではないか。
- ・ハード整備に合わせて、場所をどのように生かしていくかソフト面もあわせて検討が必要である。
- ・観光客や飲食店で酔っぱらう人、親子連れなどさまざまな属性の人があつまるのであればゾーニングも必要だと思う。

○千歳通りの交差方法について

- ・第5案として、今のまま何もしない案を提案する。
- ・駅周辺に限らず交通影響は大きいので、幅広く広報や情報提供、意見聴取を行ってほしい。
- ・駅周辺の住みやすさにフォーカスするのか、発展にフォーカスするのかによって判断は異なると思う。
- ・千歳通りの通行止めの目的や効果をもう少し説明したほうがよい。1日8万人の乗降客数のある一宮駅で、それでもまちへと人が出てこないボトルネックの1つはスクランブル交差点である。

○ラウンドアバウトの改修について

- ・ラウンドアバウトを残すという案には賛成する。また、駐車場の出口が歩行者空間を分断しているということだが、岡崎の中央緑道のように、出口の上を人が歩くようにしたらどうか。

○その他

- ・新しい取り組みはとても良いことだと思うが、まずは基本的な課題の解消が優先ではないか。具体的には、歩道のたばこ吸い殻のポイ捨て、不健全なお店の対策、今回のことに限らず町内会への情報提供、意見聴取が不十分である。
- ・一宮が変わろうとしていることをひしひしと感じている。子どもころ、本町商店街はすでにお店は少なく、今も変わっていない。今一宮が変わらなければ、これからもずっとこのままなんじゃないかと感じる。不便はあるかもしれないが、基本的に変わっていくことに賛成をしたい。

(アドバイザー)

- ・子育てしやすく教育が充実したまちは人口が増えている。
- ・子どもの頃にまちなかで楽しく過ごす思い出をつくるのが、再びまちに戻る人を増やす可能性がある。
- ・地域の自治は行政だけではできないため、市民が地域の自治に関して真剣に考えることが重要である。自治ができている地域では行政の関与の有無にかかわらず自然に情報は入ってくる。同様に、まちなかを整備した後のマネジメントについても行政だけではできないため、住民や事業者が真剣に考えなければいけない。

6. まとめ

- ・20年先に住みたい、選ばれるまちになるための価値創造をみんなで考えていこう。
- ・ハードの整備に目が行きがちだが、ハード・ソフト面の検討だけでなく、情報発信やマネジメントを一体的に進めていかなければいけない。
- ・子供の意見やエリア的な広がりなど、多様な意見を吸い上げ、行政の判断に向けて民意をしっかりと伝える。